ＪＲ連合
ＮＥＷＳ
ＪＲ産業に集う
すべての仲間の
ＪＲ連合への
総結集を！！
2026 年度
Ｎｏ．３６
２０２６年１１月１０日
日本鉄道労働組合連合会

連合2027春季生活闘争中央討論集会



連合は 10 月 30 日、都内で「２０２７春季生活闘争中央討論集会」を開催し、各産別・地方連合会などからオンラインを含め総勢 534 名が参画した。

主催者を代表してあいさつした芳野友子会長は、①賃上げノルムの形成と浸透、②格差是正、③働き方の改善、④ジェンダー平等・多様性推進、⑤仲間作りに対する所見を述べたほか、「賃金水準を追求するうえでは、規制料金・公共サービス分野の価格転嫁率向上が重要」との認識を示した。

基調講演、委員会報告の後、事務局が提起した「基本構想」では、「すべての働く人の持続的な生活向上を実現しよう」などの基本スタンスや中期の水準目標を示し、賃上げ目安として「定昇相当分を含め６％中心・５％以上」、中小労組などは「格差是正分１％以上を加えた２万円以上・６％以上」との構想が提起された。

闘争方針策定に向けたＪＲ連合の課題認識を発信



全体討議では、各産別の代表者らが「取適法のさらなる周知徹底」「中期の水準目標は賃上げノルムを定着させるうえで未来志向の重要な目標となる」などの活発な意見が出される中、ＪＲ連合を代表して質疑に立った住吉一家労働政策局長は、運賃制度の課題を例にあげ「適正な価格転嫁を阻害する要因があれば見直すべき」と主張したほか、水準目標に対する期中での検証、規模間格差是正にむけた取り組み、春闘の機会を通じた組織拡大と集団的労使関係の充実について、ＪＲ連合の課題認識を発言した。

連合は、本集会や今後開催する各会議での議論を踏まえ、12 月２日に開催する中央委員会において、２０２７春季生活闘争方針を決定することとしている。